



## 札幌の学生に

### ミュージカルの灯火を

## 北海道発 ミュージカルサークル



## に迫る!

『ハルニレ』は2021年に設立された北大ミュージカルサークルです。「札幌にミュージカルを」という思いのもと、現在約20名で活動しています。今回はそんな新進気鋭の演劇サークル『ハルニレ』の舞台裏について、私たち学生エディターが調査してきました!

— それでは、さっそく質問の方に移らせていただきます。設立当初は何人くらいの人が所属していましたか?

池田：サークルは2021年3月に設立したんですが、僕が入学した2021年4月の時点でメンバーは2〜3人。設立者の頑張りにより、そこから一気に15人くらい増えましたね。歌やダンスなど、各自が興味のある分野について取り組む感じでした。例えば「カラオケが好きだから」「元ダンス部だったから」「みたいな。新型コロナウイルスが流行していた時期で、初めは対面で練習することができず、Zoomで発声練習をしていました。他にも、初回公演の1週間前にサークル内でクラスタが発生して急遽上演を延期したり…大変でしたが、達成感は大きかったです。

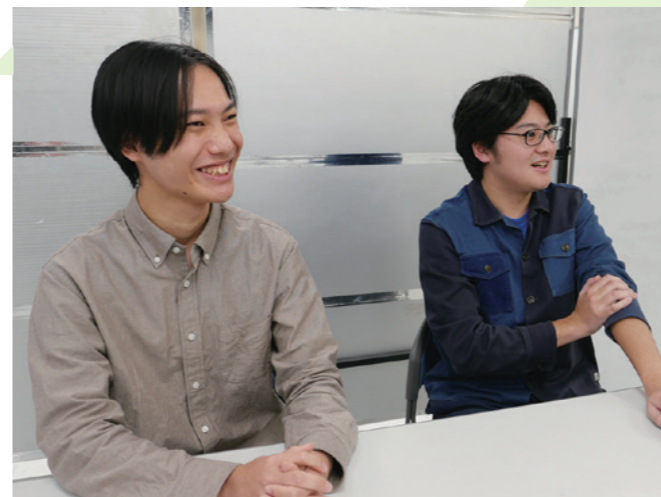
— サークルではどんな活動をしているんですか?

堀内：年2回の公演とそれに向けた稽古が中心です。上演場所の確保から、協賛金集め、衣装小道具の準備まで全て自分たち学生で行っています。

池田：公演に向けた普段の練習では、基礎練習のほか、歌、ダンス、場面ごとのシーン練習、体力づくりのための筋トレも欠かせません。それぞれ10分、合計40分程度行います。

— 北大生と他大学の学生の比率はどのくらいでしょうか?

菊池：…だいたい6対4くらいです。他大学からは主にSNSを見て来てくれた学生が多いですね。札幌市内だけでなく、近郊の大学に通う学生もいます!



サークル代表の北海道大学2年堀内さん [左] 4年池田さん [右]

Q 小道具は自分たちで製作していますか? それともどこかで買ってる?

山下：市販の入手が困難なものや、作った方が安く済むもの、安全性が高いものに関しては美術担当が作っています。材料の調達は100均を使用することが多いので、お店の場所はだいたい網羅しています(笑)。

池田：作品の世界観を作るうえで欠かせない部門なので、演出を担当したことのある身からすると本当に頭が上がりません。予算との戦いなんですよ。普通に用意したらお金がかかるものを、いかに安く抑えるかが大事です。

Q 歌やダンスについて、専門の外部講師などはいますか?

池田：先生はいません。  
松井：経験のあるメンバーが中心になって教え合う形をとっています。

Q 曲によっては自分たちで振付を考えることもあるそうですね。どんなところが大変ですか?

松井：場面や劇全体の雰囲気を考えないといけないことです。ストーリー性や歌詞と合わせることを意識したり、どう魅せたいかを演出担当の人と擦り合わせ、劇全体がより良く見えるよう工夫をしています。

## 舞台ウラのアレコレ… 聞いちゃいます!



池田さん



山下さん



松井さん

Q 劇中で使う曲の歌詞を日本語訳する際、意識していることはありますか?

池田：1つの音に入る単語の数ですね。英語と日本語では文字数が違うので、決められたスペースにどれだけ情報を詰め込めるかが大事です。なんとか音に合うように調整しながら、意味が伝わるように考えています。この翻訳作業は脚本担当が行うことが多いです。

Q 照明の仕事って想像が付きませんか。どんな仕事があるんですか?

池田：主に音に合わせた光の演出を考慮することですね。アンサンブル(大勢が登場して歌ったり、踊ったりする)のシーンでは明るく華やかにしたり、逆に会話のシーンは話に集中できるように演出をあまり入れなかったり、ソロの歌唱シーンではピンスポットにしてみたりします。

Q 必要な楽譜はどのようにして作成していますか?

松井：必要な部分だけをインターネットで購入して、それを切り取って配っています。楽譜がないものは音を教えてくれるアプリなどを使って自分たちで作成します。他には、「絶対音感」を持つ知人に依頼して「耳コピ」で楽譜を作ってもらったこともありました。

Q 音響の仕事はどんなのがああるんですか?

池田：公演に必要な音源や効果音(SE)を探して流します。他にも、「この間奏部分にセリフを入れたい…けど、尺が足りない!」となった場合、間奏部分を延長する「音源編集」という作業をします。舞台には立っていないけど、物語をお客さんに届けているという実感があって楽しいです。

## 蘇る、オーディションの記憶

— オーディションはどのような流れで進みますか?どこを重視していますか?

池田：オーディションを行う役に合わせて曲と該当シーンを決め、希望者に提供します。そこから約3週間程度自主練習の時間を取ってオーディション本番という感じですね。重視しているのは役に合っているかと、歌唱力、表現力、発声などです。次の公演ではオーディションがなく、メンバーひとりずつと話をし、そこから役を

作る当て書きの形を予定しています。  
— 実際に受けてみてどうでしたか?

松井：正直、本番よりオーディションの方が緊張します(笑)。複数の役を受けることもあるので、それぞれの感情を比較して想像するのが難しいです。  
堀内：自分の要素を取り入れながら、役を客観的に見ることも大事なんです。自分が演じる役について細かく分析してオーディションに臨んでいます。

## ハルニレがめざすもの

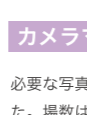
ミュージカルは役者だけでなく、裏方も含め全員で協力して作り上げるものです。そのためには1人ひとりの成長が必要で、それが、サークル全体の成長につながっていくと考えています。ミュージカルは見てくれるお客さんがいてこそ成立するものですから、自己満足では終わらないようにすることを意識しています。やっぱり、お客さんと一体感を感じられる舞台を今後もつくっていききたいです。

「ハルニレ」のホームページ  
公演に関する最新情報はコチラから!  
インスタやXのアカウント情報も掲載

## 学生エディタ メンバー



編集者 藤女子大学3年  
寺田 智咲  
記事を作成していく中で改めて日本語の表現の難しさを感じました!



カメラマン 京都芸術大学2年  
本多 翔  
必要な写真を考えるのに苦労しました。場数はどこでも重要です。



デザイナー 札幌市立大学2年  
大久保 杏優  
タイトルのデザインは特に学びが多くて、良い経験になりました。



ライター 藤女子大学1年  
西尾 実優  
チームで物を作り上げることの難しさを実感しました。楽しかったです!

## 編集後記

公演の成功という一つの大きな目標に向かい、演者も裏方もメンバー全員が一丸となって取り組む姿に同じ学生として心を打たれました。舞台上立つまでの苦労や、メンバー同士で支え合う姿は、観客の皆さんにもきっと大きな感動をもたらすことでしょう。「ハルニレ」のさらなる活躍に今後も目が離せません。取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございました!(西尾)